

第56号 発行日 平成24年10月

日頃、地域医療連携にご支援・ご協力をいただきありがとうございます。
ごさいます。

当院で5大がん地域医療連携パスが整備されてから、1年が経過しました。運用件数はまだ少ない状況ですが、今後、医療の質の均てん化、地域完結型医療の推進にむけ、パスの活用が期待されます。

今月は、当院のがん地域連携パスの運用状況について、その一部をご報告いたします。

地域医療連携室 大沢 知佳

がん地域医療連携パス始動！

平成24年4月の診療報酬改定により、退院後、30日以内の連携医への紹介であれば、「がん治療連携計画策定料1」が算定できるようになりました。

それによって、9月30日現在、3名の患者さんが、胃がん地域医療連携パスを活用し、当院と連携医の二人の主治医によって、診療を受けられています。

がん疾患が増加する中、安全で質の高い医療を提供し、患者さんご自身も病気や診療計画を理解できる、がん連携パスの運用がますます期待されます。

私のカルテ



この手帳は、手術病院と地域のかかりつけ医が協力し、患者さんの視点にたった安心して質の高い医療を提供する共同診療体制を構築することを目的に作成されました。

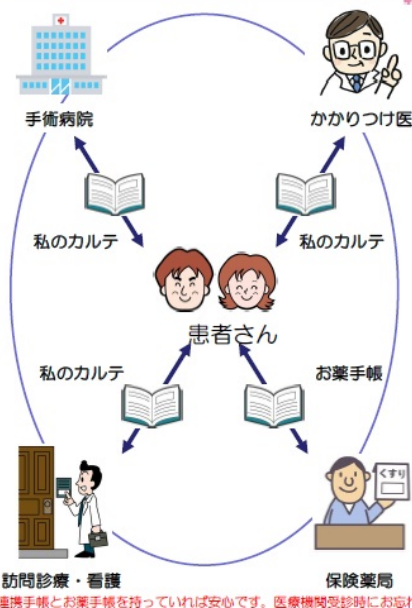
内容には、①患者さんの診療情報、②退院後の生活について、③今後の診療予定表、④通信欄などが含まれています。

この手帳を活用し、かかりつけ医と手術病院の医師が協力して患者さんの治療を行います。

病状が落ち着いたときの投薬や日常の診療はかかりつけ医が行い、専門的な治療や大きな検査は手術病院が行います。何か心配なことがあるときには、まずかかりつけ医に相談して下さい。適宜必要に応じ手術病院を受診していただけます。また、緊急を要する場合は、休日や夜間などでかかりつけ医を受診できない場合は、手術病院までご連絡下さい。



地域医療連携とは



がん地域医療連携パス運営委員会

平成24年9月28日（金）シャイニーパレスにおいて、第2回がん地域医療連携パス運営委員会が開催されました。

当院および地域の医療・保健・福祉機関等の関係者が、パスの運用状況と課題、情報管理方法、診療報酬改定に伴う運用マニュアルの変更について、協議しました。今後もスムーズな連携にむけ、検討を重ねていきたいと思ひます。